

農業を始めませんか

新規就農希望者を支援する各種制度の紹介！

新規就農者に対して給付金があります

■対象者＝65歳未満の新たに就農する人で、「人・農地プラン」に位置づけられた中心となる経営体であること。

※45歳未満の人は国事業、45歳以上65未満の人は市事業の対象となります。

※「人・農地プラン」の詳細については、本庁（別館）・農業振興課へお尋ねください。

■支援内容＝新規に就農する人に対して、農業経営開始時に必要な費用として年間150万円を最長で3年間給付。



新規就農希望者に対して研修事業があります

■対象者＝市内に住所がある人で、新規に就農しようとする原則43歳以上おおむね65歳未満の人。

※3親等以内の親族のもとでの研修は対象外となります。

※43歳未満の人は、青年就農給付金（準備型）事業があります。詳細は、本庁（別館）・農業振興課へお尋ねください。

■研修期間＝2年以内。

■研修内容

- ・市内の認定農業者などでの現地研修。
- ・月に1回程度の座学研修。

■支援内容＝新規に就農を希望する人に対して、農家などで農業技術習得のための研修を実施します。研修生には月額13万円と交通費が支払われます。



このほか、市農業振興課では新たに就農したい人からの相談を随時受け付けています。お気軽にご相談ください。

【問い合わせ先】本庁（別館）・農業振興課 ☎231111

特産の“トルコギキョウ”栽培を受け継ぐ

やすし
岩下 靖さん
(新和町大多尾・29歳)



花づくりを通して

農業のおもしろさを知る

7月から、新和町小宮地にあるビニールハウス16アールを借りて、トルコギキョウの栽培をスタート。トルコギキョウはリンドウ科の植物で、品種によって紫やピンクなどの鮮やかな花をつける。市内では新和町が主な産地であり、栽培面積は約2・5ヘクタール。毎年11月から6月ごろまで、主に関東・関西方面に出荷されている。地元の農協でトルコギキョウの出荷作業のアルバイトをしているときに、同町内で花

自分も後継者を育成できるようになれたら

現在は、9月に植えた苗に水やりを行うなどの生育管理作業がメイン。来年2～3月には、初収穫ができる見込みだ。「自分はまだまだ若輩者ですが、トルコギキョウの産地を守っていけるようにがんばりたいです。そして、ゆくゆくは自分も後継者を育成できるようになれたらと思っています」。岩下さんは力強く語ってくれた。

その後、中元さんが所有するビニールハウスの一部を受け継ぐ形で、独立した。

の栽培をしている中元亀さんに「花をつくってみないか」と誘われたのがきっかけで、研修生になることを決意。中元さん方で4年間、花づくりのノウハウを学んだ。「実家はみかんと米を栽培している農家ですが、家業を継ぐ気はなかったんです。それでも、花づくりを通して農業のおもしろさを知りました」と岩下さんはほほえむ。



1岩下さんが借用しているビニールハウス 239月下旬に苗の定植を実施 4台風24号の接近に伴い、被害対策として畝に張られているマルチと呼ばれるビニールの補強を行う岩下さん 5研修を受けた中元さん(右) 6中元さんのビニールハウスで苗の定植を手伝う岩下さん 7きれいに色づいたトルコギキョウ(中元さん栽培)